

大磯町デジタル化推進計画（素案）についてのご意見及び町の考え方について

No.	意見
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 回覧板のデジタル化 回覧板を紙で回すのではなく、電子的に配信してほしい。 一軒でも旅行に行っていたりするとそこで回覧板が止まるし、共稼ぎの家では日中は留守になるので回覧板が止まります。”専業主婦が必ず家にいる”ことが前提の回覧板システムは遠からず破綻すると思います。 ○ 班長会議のリモート化 班長会議は”必ず”対面というのは前時代的だと思います。班長会議もリモート化すべきだと思います。手段は Microsoft Teams でも Zoom でもなんでもいいと思います。 ○ ゴミ収集の日のカレンダーは紙での配布のみではなく google カレンダーなどに取り込めるように ICS 形式で町のホームページからダウンロードできるようにしてもらえると助かります。 ○ 各種寄付などは班長が各戸を回って集金というのは今後町が高齢化することを考えると難しくなると思います。 例えば町のホームページ上で PayPay の QR コードを掲示してそこを読み込んで PayPay 払いができるようにするとか、ペイジーで寄付できるようにするなどのご検討いただければと思います。高齢者が寄付金集めに回っているところを強盗に襲われても困ると思います。 ○ 広報大磯も班長が各戸をまわって配っていますが、高齢化するとこの作業も大変になると思いますので、広報大磯の各戸紙配布これは廃止して PDF 化してホームページに掲載すれば十分だと思います。（財源が苦しい大磯町でいつまでも無料の広報誌を印刷し続けるのは難しいと思います。） 紙での配布は町役場や”たまや”や”しまむら”のようなところにおいてもらえれば十分だと思います。（実際スーパーには無料の広報誌が置いてありますので、さほど不自然ではないと思います。） ○ 災害時の避難確認も玄関にタオルをつけてとっていますが、これは本当の災害時に高齢の班長が確認できるとは思えず、非現実的です。例えば、セコムのような電子的な安否確認システムを導入すべきだと思います。 ○ 高齢化する大磯町では自治会（大磯町では”班”ということになると思います。）は、遠からずシステムが維持できずに破綻すると予想します。 今のうちに自治会が消滅しても困らないように、回覧板や寄付の収集、広報大磯など役場が自治会に頼っていることで、電子化できるものは積極的に電子化してゆくべきだと思います。
	<p style="text-align: center;">町の考え方</p> <p>自治会の皆様には、防犯や交通を含む地域の安全、災害時の対応、ごみ集積所の管理、地域の文化・レクリエーション活動、子ども会や老人会を含む福祉活動などに加え、町が依頼させていただいている広報等の配布、各委員の推薦、募金等などといった行政の様々な事業等へ協力を行っていただいています。</p> <p>御意見をいただきましたとおり、近年、少子高齢化の進行やライフスタイルの変化等に伴い、町内会・自治会では、地域住民同士のつながりの希薄化、役員の高齢化や担い手不足等の課題を抱えていることは、町としても認識しています。</p> <p>デジタル化は、様々な地域課題の解決のための手段のひとつであり、町民の皆様の利便性が向上することが見込まれます。今後、より一層進展していくデジタル化社会に対し、行政としての的確に対応していくことは、町民の皆様の暮らしを守る意味でも非常に重要だと考えます。</p> <p>いただいた御意見につきましては、関係部署間で共有するとともに、今後、本計画を具現化しデジタル化を実現する際の参考とさせていただきます。</p> <p>行政サービスのデジタル化により、スマートフォンなどのデジタル機器を持たない方やデジタル機器に不慣れな方に不利益が生じないように、丁寧なサポートに配慮してまいります。</p>